

書籍『未来政府』のご紹介

いなつぐ
稲継裕昭@早稲田大学

20170325 CIVIC TECH FORUM 2017@Nagatacho Grid

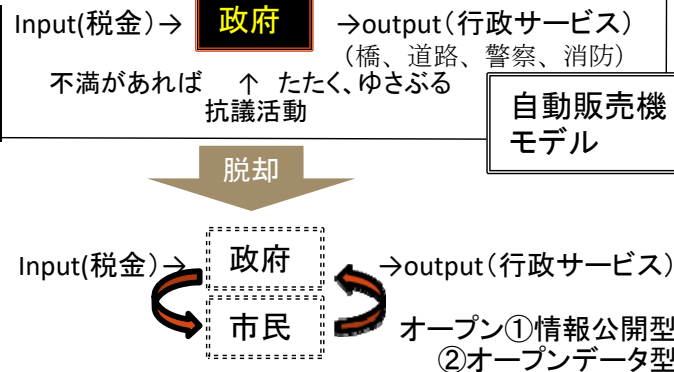
1

『未来政府』

『未来政府』(原題 "Citizenville"[市民の街])
ギャビン・ニューサム著 49歳
カリフォルニア州副知事(公選職)
前サンフランシスコ市長(36歳~)
ワインショップ経営などの実業家出身。
×SF市長の業績集、自慢話 ではない。
○キーパーソン(グーグル、ツイッター)にインタ
ビュー⇒社会と民主主義の未来像を描く
○先進的な取り組みの事例集
○IT、IoTを活用した政府の情報公開、市民
との対話を目指す

2

自動販売機から市民政府へ



3

政府はプラットフォームたれ

iPhoneアプリ200万以上(99.99%が第3者開発)
アップル社はプラットフォーム企業
政府:公共インフラの整備⇒民間イノベーション
(高速道路、GPS、インターネット)
オープンデータ整備⇒民間による開発
・米連邦政府(Data.Gov)
17万件以上のデータセット公開
・ワシントンDC地域データ公開⇒民間のアプリ開発
⇒Wifiスポットマップ、犯罪情報マップ、
バス検索アプリ、駐車場検索アプリ

日本で鍵となるのは自治
体のデータセット

ガバメント2.0の実現による市民生活の充実

(政府2.0:双方方向型政府
公共サービス決定に市民が主体的に参加)

実現のために必要なこと

- ①行政が持つ情報を積極的に住民に提供
- ②提供情報を活用して行政に参加できる仕組みの構築

4

本書で紹介されている具体例(抄)

- ・**クライムスポッティング**(p.111)
オークランド市(SF対岸、犯罪多発)
市が提供する犯罪発生情報=貧弱
一人の市民が休暇を利用しアプリを開発
→極めてわかりやすい
しかし市の抵抗。⇒結局公開を望む市民の勝利
- ・**Challenge.gov**(p.228)
連邦政府が課題解決コンテストの開催、周知
課題を省庁が提示、参加者が解決策を提案
→相互に批判し改善案を示しなど討論
→最優秀者に賞金も
700超のコンテストが開催され、政府業務改善へ
例:虐待対策アプリ、不在投票ポスターコンテスト、明るい明日
の照明賞、など

- ・**メイナークラボ**(P.178)
テキサス州メイナーク市
市民参加型のオンラインゲーム
* 問題解決を市民が提案⇒仮想通貨を獲得
通貨が溜まると1日市長、パトカー乗車など
→市民の提案を可視化⇒市民が競争で参加
例:公共工事予定をRSSで配信、掲示板にQRコード
- ・**市民参加型予算編成**(P.273)
ブラジルのポルトアレグレ市
市の予算の1/4を市民がネットで投票して決定
NY市の事例。600万ドルの予算を市民が決定
- ・**政府版YELP**(P.218)
フィードバックの輪⇒サービスの修正と改善
政府:独占状態⇒イノベーション欠如、自己満足
部局間競争、他自治体との競争させてはどうか

5

日本での展開

福岡県鯖江市:データシティ鯖江
ホームページ公開情報をXML形式等で提供
民間の開発者がアプリ開発
京都市 政令市初のオープンデータPS
現在225データセット(2016年12月開始)

PDF形式は
データの墓
場!

6

あなたの街で



書きこんでみましょう

- ・あったらいいなと思うこと
- ・できること・働きかけの相手方